HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	スロバキアにおける「ユダヤ人問題の解決」に対するドイツの影響……カタリーナ・フラツカ
著者	木村，和範；KIMURA，Kazunori
引用	北海学園大学経済論集，73(3)：351-359
発行日	2026-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

《翻訳》

スロバキアにおける「ユダヤ人問題の解決」に対するドイツの影響*

カタリーナ・フラツカ**
木　村　和　範***（訳）

1940 年 5 月 28 日，ベルリンに召喚された初代スロバキア駐在ドイツ公使ハンス・ベルナルト (Hans Bernard) は，外務省の要請に応えて「スロバキアに対するドイツの見解」と題する長文の報告書を執筆した。それによれば，スロバキア共和国が 1939 年 3 月に締結した保護条約[訳注1] 第 4 条を履行しておらず，その外交政策がドイツの政策と歩調を合わせていないばかりか，「ユダヤ人問題が解決の方向に進まず，ドイツにとって不倶戴天の敵［であるユダヤ人］が，スロバキアにはいなくては困る市民と見なされている。」と指摘されている。その上で，内政の危機が刻一刻と迫っているとも述べた(1)。ベルリンでこの「スロバキアに対するドイツの見解」を提出し，直ちにブラチスラバに戻ったベルナルトは，スロバキア大統領と政府に対してザルツブルク会談[訳注2] へのヒトラーの招待を伝達した。このザルツブルク会談の結果は，一般に知られているが，スロバキアとドイツの首脳どうしのこのときの会談によって，スロバキアにドイツ国家社会主義イデオロギーが定着するようになり，それと同時にスロバキアはドイツへの依存度を高めることになった。その後の経過からも明らかなように，ド

＊Katarína Hradská, “The Influence of Germany on the ‘Solution of the Jewish Question’ in Slovakia,” in: Waclaw Dlugoborski, Dizider Tóth, Teresa Świebocka, and Jarek Mensfelt (ed.), *The Tragedy of the Jews of Slovakia 1938–1945: Slovakia and the “Final Solution of Jewish Question”*, Auschwitz-Birkenau State Museum and Museum of the Slovak National Uprising: Oświęcim/Poland and Banská Bystrica/Slovakia, 2002, pp. 87–94. 翻訳出版は執筆者の許諾を得た。［　］内は訳者による。

＊＊スロバキア科学アカデミー歴史研究所 (Historický ústav SAV)

＊＊＊本学名誉教授

［訳注 1］保護条約の正式名称は「ドイツ帝国とスロバキア国の間の保護関係に関する条約（Zmluva o ochrannom vzťahu medzi Nemeckou ríšou a Slovenským štátom (A Treaty on Protective Relations between the German Reich and the Slovak State)）」。ドイツ帝国とスロバキア国との間で，ウィーン（1939 年 3 月 18 日）とベルリン（1939 年 3 月 23 日）で調印され，スロバキアはドイツの衛星国になった。ドイツ側は，外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップが，またスロバキア側は，大統領ヨゼフ・ティソ，首相ヴォイテフ・トゥカ，外務大臣フェルディナンド・ドゥルチャンスキーが署名した。「保護条約」については以下を参照。“Treaty between Germany and Slovakia, with Germany assuming military control as protector”, Website of the *Harvard Law School Library Nuremberg Trials Project*, https: //nuremberg. law. harvard. edu/documents/696-treaty-between-germany-and-slovakia?mode=text, accessed on June 26, 2025.

(1) *Deutsche Feststellungen gegenüber der Slowakei*. ADAP, series D, vol. 8 document 205.

［訳注 2］保護条約の破棄をも辞さぬ強硬な姿勢でザルツブルク会談（1940 年 7 月 28 日～29 日）に臨んだドイツ側は，① 独自路線を歩もうとしていた外務大臣フェルディナンド・デュルチャンスキー (Ferdinand Ďurčanský) の更迭，② フリンカ・

イツ方式は［スロバキアの］「ユダヤ人問題」に完璧な形で適用され，ドイツ・モデルによる「ユダヤ人問題」の解決が急速に具体化された。

ドイツの首脳陣は，ドイツ国内でつとにその名を知られていたドイツ人マイノリティ［フォルクスドイチェ］のリーダー，フランツ・カルマシン (Franz Karmasin)[訳注3] から十分な情報を得ていた。カルマシンは，ドイツ・モデルによるユダヤ人問題の抜本的解決を期待していた。1939 年 12 月，カルマシンは，ナチスの外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップ (Joachim von Ribbentrop) に，［スロバキアでは］ユダヤ人や共産主義者などの反ドイツ勢力が影響を及ぼすことを恐れていると伝えていた。そして，1940 年 6 月には親衛隊人種および移住本部 (Rasse- und Siedlungshauptamt-SS: RuSHA)[訳注4] の長官ギュンター・パンケ (Günther Pancke) をスロバキアに招いて，スロバキア人の人別帳を作成させた。カルマシンとパンケは，この人別帳に基づいて，「スロバキアから約 50 万人のユダヤ人をはじめとして，ジプシー，ハンガリー人などの劣等人種を排除し，その跡をドイツ人家族のための植民地とする」ことを提案した(2)。

本章では，ドイツの人種政策と不即不離の関係にある，スロバキアにおける「ユダヤ人問題の解決」に関して最重要と思われる事柄を考察する（カトリック国を自認しているスロバキアは，その権力機構を利用してユダヤ系市民を排除した最初の国になったが，ここではその経緯については取り上げない）。

1．総統（フューラー）大本営における会談（1941 年）[訳注5]

1941 年 10 月，総統（フューラー）大本営[訳注6] でスロバキアとドイツの両国首脳が会談した。ホロコーストに関してスロバキア側が作成した文

スロバキア国民党急進派（ヴォイテフ・トゥカ (Vojtech Tuka)，アレクサンデル・マッハ (Alexander Mach) など）による政権担当とドイツをモデルにした総統制の導入，③ 内政と外交に「助言」する専門家の「顧問官 (Berater)」としての派遣をスロバキア側に認めさせた。この会談以降，総統（フューラー）大本営での会談（1941 年）を経て，スロバキアは，1942 年に約 5 万 8000 人のユダヤ人をポーランド総督府ルブリン県マイダネク収容所と旧ポーランド領アウシュヴィッツ収容所に強制移送した。

［訳注 3］フランツ・カルマシン（1901 年～1970 年）。スロバキアのナショナリズム政治家。カルパチア・ドイツ人党の創設功労者。1935 年～1938 年，チェコスロバキアの国会議員。1939 年，スロバキア共和国ドイツ問題担当国務長官。戦後，西ドイツに逃亡。1947 年，チェコスロバキア共和国国民法廷（欠席裁判）で死刑判決。ズデーテン・ドイツ人同郷人会 (Sudetendeutsche Landsmannschaft) で活動するとともに，ハンガリー情報部工作員。西ドイツ・バイエルン州で死亡。① “Franz Karmasin,” Website of the *DBpedia*, https://dbpedia. org/page/Franz_Karmasin, accessed on Jul. 7, 2024: ② “Karmasin, Franz,” Jefferson ADAMS, *Historical Dictionary of German Intelligence*, Lanham/ Maryland: Scarecrow Press. Inc., 2009, p. 223; also Website of the *Books Google (co.jp)*, https://books.google.co.jp/books?id=gnEWm4kC844C&pg=PA223&redir_esc=y#v=onepage&q&f=false, accessed on Jul. 7, 2024.

［訳注 4］「親衛隊人種および移住本部」は親衛隊員の「血」の純潔性を確保維持するために 1933 年に設置。その前身は親衛隊帝国指導者に直属する親衛隊人種事務局 (Rasseamt SS)（1931 年設置）。Cf. “Rasse- und Siedlungshauptamt-SS (Bestand),” Website of the *Deutsche Digitale Bibliothek*, https://www.deutsche-digitale-bibliothek.de/item/VOECH2KKRYOYLHIJE3UJK4KCXKVBFIGE, accessed on Jul. 7, 2024.

(2) A MV CR, Prague, fond F. Karmasin, 325-15-2, in: HRADSKÁ, Katarína: *In case Wisliceny: Nazi advisors in Slovakia and the Jewish question*, Bratislava 1999, p. 17. 当時の住民の人口についてこの 50 万人という数字は，訳が分からない。スロバキアには約 9 万人のユダヤ人と約 3 万人のジプシーが住んでいた。数十万人のユダヤ人という数字は，ベルリンがカルマシンを助けるためにうまく仕組んだプロパガンダのように見える。

書では，10 月 23 日～24 日に開催されたこの有名な会談のことが几帳面に記録されている。会議の日付は，当時の新聞で確認できる。内務大臣アレクサンデル・マッハが 1942 年 3 月の国務院の会議で行った演説では，正確な会談日時についての言及はないが，この会談が「ユダヤ人問題の解決」にとって最も重要な一歩になったと述べている。ドイツで出版されたヒムラーの軍務日誌によれば，明らかに大統領ヨゼフ・ティソは 10 月 20 日に外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップと非公式会談を行っている。交渉が始まったのは，その翌日からである[3]。マッハは，戦後の国民法廷で次のように供述している。

> 我が方としてはドイツ軍の力でユダヤ人を追放したいと考えていました。その第一歩が踏み出されたのは，総統（フューラー）大本営にいたときです。外務大臣［フォン・リッベントロップ］が同席してヒムラーと話す機会がありました。そのとき，貴国にはどれほどのユダヤ人がいるのかと尋ねられました。9 万人のユダヤ人がいると応えました。ドイツ側は，そのユダヤ人が欲しいと言いました[4]。

マッハの説明を聞いたヒムラーは，同席者に対してドイツとしては占領下のポーランドに隔離区域を設け，そこにスロバキア・ユダヤ人を強制移送しようと考えていると述べた。ドイツ側は，ユダヤ人に関心を持っていることを明らかにして，第三帝国がスロバキア政府を助け「ユダヤ人問題」を実際に解決することを約束した。1941 年 10 月，ドイツ側は「ユダヤ人問題を解決」するためのシナリオを作成したが，このときこそ，まさしく「ユダヤ人問題の解決」に向けて現状を打破する画期的な出来事が起ったと言えるであろう。

2．顧問官ディーター・ヴィスリチェニーの派遣（1940 年）

スロバキアにおける「ユダヤ人問題」の解決にとって重要と思われる第二の出来事は，政治，行政，経済に関する最重要事項を所管するスロバキアの政府機関にドイツ人顧問官 (adviser) が赴任したことである。ドイツ顧問官の派遣は，スロバキアの主権に対する最も特徴的な介入の 1 つであった。ザルツブルク会談終了の翌日（1940 年 7 月 29 日），外務大臣フォン・リッベントロップは，新任のドイツ公使［マンフレット・フォン・キリンガー (Manfred von Killinger)］に電報を打ち，警察，政治宣伝（プロパガンダ），経済問題，フリンカ警固隊 (Hlinka Guard)［フリンカ・スロバキア国民党の準軍事組織］，そして言うまでもなくユダヤ人問題を所管する［スロバキアの］政府機関に派遣する顧問官（adviser）を迅速に任命する必要があると伝えた[5]。ここで使用した英語の「adviser

［訳注 5］以下，節のタイトルは訳者による。

［訳注 6］ケントジン (Kętrzyn)（ポーランド）の東約 9 キロ（ギールウォズ (Gierłoż)）にあった，対ソ戦の前線指揮所（1941 年 6 月 24 日～1944 年 11 月 20 日）。公称は「狼の砦 (Wolfsschanze)」であるが，英語で「狼の巣 (Wolf's Lair)」と言われることが多い。1944 年 7 月 20 日，ここでクラウス・グラーフ・シェンク・フォン・シュタウフェンベルク (Claus Graf Schenk von Stauffenberg) がヒトラー暗殺を試みたが，失敗した。Vgl. Brigitte JÄGER-DABEK, „Die Wolfsschanze - Das Führerhauptquartier in Masuren“, Website of the *Ermland-Masuren Journal*, https://ermland-masuren-journal. de/die-wolfsschanzewilczy-szaniec/, accessed on May 13, 2025.

(3) *Der Dienstkalender Heinrich Himmlers 1941/42*, kommentiert und eingeleitet von Peter Witte *et al*., Mit einem Vorw. von Uwe Lohalm und Wolfgang Scheffler, Hamburg: Christians, 1999, S. 241.

(4) NSA, fond Narodny sud［国民法廷関係］, Tn l'ud 13/42, Otomar Kubala, kr. 36.

(5) *Police d'Israel*, 495, Yad Vashem, Jerusalem, compare to IfZ Mnichov, NG-4399.

(顧問官)」という言葉は，“Berater”（ドイツ語）の訳語である。スロバキアの歴史学では，“adviser”だけでなく，“Berater”という原語がそのまま使われることもあって，当時はドイツの出先機関の職員もみな“Berater”と呼ばれていた。［ザルツブルク会談の後に派遣された］「顧問官」は様々な分野の専門家と見なされ，「新秩序」[訳注7] の構築のためにスロバキア以外の国でも活動したが，武力で占領されていない衛星国に配置されていた点では，スロバキアの顧問官は例外的な存在である。この事実は，ドイツがスロバキアの生殺与奪を握っていたにもかかわらず，ドイツの方針を具体化するためのお目付役として，顧問官がなぜ初めてスロバキアにわざわざ派遣されたのかという疑問を呼び起こす。ことユダヤ人問題に関する限り，このことは特徴的ですらある。スロバキアは，ユダヤ人「問題」を独力では解決することができず，ドイツの支援を必要としていた。だからこそ，最初に派遣された顧問官の中には，ユダヤ人問題解決の任務を帯びた専門家が入っていたのである。

ドイツ人顧問官の任命には，不透明なところが多々ある。ザルツブルク会談で［首相の］ヴォイテフ・トゥカがドイツ人顧問官を若干の政府機関で受入れることを約束したという情報は，周知されなかった。また，顧問官の職務権限 (competence) もはっきりしていなかった。しかし，すべてが粛々と正確に指示どおりに履行された。ドイツ側によるスロバキアの「自治」への介入は人目を引くことなく，しかもドイツが横車を押していると察知されないように行うべしという意見が優勢を占めていた(6)。ドイツ人顧問官の影響は目立たず，しかし抵抗できないように威圧して，その実を挙げるべしとされたのである。

1940 年 10 月にヒトラーの総統（フューラー）大本営でヒムラーは，第三帝国がスロバキアにおける「ユダヤ人問題の解決」を援助すると述べた。その方針をスロバキア側に伝達したのは，アドルフ・アイヒマンと最も親しい関係にあった顧問官ディーター・ヴィスリチェニー (Dieter Wisliceny)[訳注8] である。この男は，帝

［訳注 7］「団結と軍事力を大衆に誇示する (mass spectacles) ことに重きを置いた新しい攻撃的全地球外交 (a new aggressive style of global diplomacy heavily focused on mass spectacles of unity and strength)」（クリスチャン・ゲッシェル）を展開するために締結された日独伊三国同盟（1940 年）が目指す新世界秩序。この同盟には複数の国が加盟。Cf. Christian GOESCHEL, “Performing the New Order: The Tripartite Pact, 1940−1945,” *Contemporary European History*, Volume 33, Issue 2, May 2024, also available: Website of the *Cambridge University Press*, https://www.cambridge.org/core/journals/contemporary-european-history/article/performing-the-new-order-the-tripartite-pact-19401945/C8C90DF43CF992DA8353AF6BDC1814E6, accessed on Jul. 8, 2024. 以下も参照。Reto HOFMANN, “The Fascist New-Old Order,” *Journal of Global History*, Volume 12, Issue 2, July 2017, also available: Website of the *Cambridge University Press*, https://www.cambridge.org/core/journals/journal-of-global-history/article/fascist-newold-order/482AC736A73B3133C30CA0832EFC8C1A, accessed on Jul. 8, 2024.

(6) ADAP, series D, Vol. 10, doc. 17. Compare to Johann KAISER, *Die Politik des Dritten Reiches gegenüber der Slowakei: 1939−1945; ein Beitrag zur Erforschung der nationalsozialistischen Satellitenpolitik in Südosteuropa*, Bochum: Ruhr-Universität, 1969, S. 146.

［訳注 8］ディーター・ヴィスリチェニー（1912 年～1948 年）。スロバキアでの任務が終了した後，1943 年にはギリシア（テッサロニキ，サロニキとも）で，また 1944 年にはハンガリー（ブダペスト）でユダヤ人の強制移送を担当した。戦後ニュルンベルク軍事法廷で検察側証人として出廷した。その証言はアイヒマン裁判でも採用された。後にスロバキアの国民法廷で死刑判決。Cf. Katarína HRADSKÁ, „Der deutsche Berater und die ‚Lösung der Judenfrage‘ in der Slowakei“, *Theresienstädter Studien und Dokumente*, 2002. （カタリーナ・フラツカ「ドイツ顧問官とスロバキアにおける『ユダヤ人問題の解決』」（木村和範訳）『経済論集』（北海学園大学），第 71 巻第 1 号，2023 年 6 月。）以下も参照。“Dieter Wisliceny,” Website of the *Holocaust*

国保安本部 (Reichssicherheitshauptamt: RSHA) での活動，あるいは後に悪名を轟（とどろ）かせたアイヒマンの帝国保安本部第ⅣB4 課［ユダヤ課］による活動を通じて，ドイツの人種政策を忠実に実行に移した人物である。

以下，ヴィスリチェニーに関する基本情報だけに言及することにしよう。彼は，1940 年 9 月にスロバキアに顧問官として赴任し早速任務に着手し，（最初はおとなしく目立たなかったが，後になるとより精力的に）ユダヤ人問題の唯一の可能な解決策を実行した。それを簡単な図式で表わせば，

アーリア化 → 強制収容 → 強制移送

である。経済的に破綻し財産を失ったユダヤ人の存在は，当然のことながら社会問題となり，それは，早晩ユダヤ人を強制移送することによってのみ解決されると考えたのである。ヴィスリチェニーは，「ユダヤ人から店舗や財産を取り上げることになれば，明らかに何らかの『解決策』を見つけなければならない。」と述べた。この「解決策」とは大量の強制移送[7] のことであり，それは後日，日の目を見ることになった。ヴィスリチェニーは，指示を送ってくるアイヒマンとスロバキア政府の間で連絡係を務めたが，強制移送計画に関してベルリンから情報が届くたびに，両国の内務省の間の連絡役も果たした。本国外務省を後ろ楯にヴィスリチェニーは，ユダヤ人をスロバキアから移送することについてスロバキア政府との交渉に着手した。その必要上ヴィスリチェニーは，ポーランドの強制収容所の状況を視察するために第三帝国を代表してスロバキア政府の視察団に加わり，アッパー・シレジアを視察した。そして，ドイツ公使ハンス・エラルト・ルディン (Hanns Elard Ludin)[訳注9] とともにスロバキアのユダヤ人問題を早急に解決する必要があることを確信した。

スロバキア国からのユダヤ人の強制移送問題に対するヴィスリチェニーの構想は，よく練られていて，後の反ユダヤ政策を予示するものであった。1942 年 3 月から 10 月までの強制移送では［約 7 万 8000 人が移送され］1 万人のユダヤ人が死亡した（そのほとんどはポーランド総督府ルブリン県マイダネク収容所と旧ポーランド領アウシュヴィッツ収容所で死亡した）。その後，実利主義者，と言うか利に聡（さと）い反ユダヤ主義者になったヴィスリチェニーは，強制移送の中止を口約束して，何千ドルもの金銭を支払わせた。賄賂，賂（まいない），袖の下は，救いをもたらす唯一の武器になることがあるかもしれない。しかし，ヴィスリチェニーの手にかかると，まやかしの希望を抱かせるものでしかなかった。ヴィスリチェニーは，スロバキアにあってドイツの反ユダヤ政策を実行した。それのみか，反ユダヤ政策がもたらす帰結の隅々にまで影響を及ぼそうとして，袖の下を巻き上げ，思わせぶりな態度をとった。結果的にはヴィスリチェニーが，強制移送に深く関わったという事実は，いささかも変わるものではない。

Historical Society, https://www.holocausthistoricalsociety.org.uk/contents/germanbiographies/dieterwisliceny.html, accessed on Jul. 8, 2024.

（7）1946 年 5 月 6 日のニュルンベルクでの法廷におけるディーター・ヴィスリチェニーの証言。この引用は，スロバキアの歴史学でしばしば言及されているが，様々なバージョンがある。Compare to: NSA, fond Narodny sud, Tn 1‘ud 117/46 A. Vasek, also Bundesarchiv Berlin, R 70 Slowakei/35 and Richard BREITMANN, *Der Architekt der Endlösung. Himmler und die Vernichtung der europäischen Juden*, Paderborn 1996, S. 305.

［訳注 9］ハンス・エラルト・ルディン（1905 年～1947 年）。1941 年，マンフレート・フォン・キリンガー (Manfred von Killinger) の後任としてスロバキア駐在ドイツ公使に赴任。外交面から強制移送を進めた。チェコスロバキア国民法廷で死刑判決。Cf. “Hanns Ludin (1905–1947),” Website of the *Jewish Virtual Library*, https://www.jewishvirtuallibrary.org/hanns-ludin, accessed on Jul. 8, 2024.

3．移送計画の頓挫（1944 年初頭）

1943 年 12 月，ヒトラーの命を受けた特使エトムント・フェーゼンマイヤー[訳注10]は大統領ティソと会談した。このとき，フェーゼンマイヤーは，ドイツとしてはスロバキアからの強制移送の進捗状況には不満であるとするヒトラーの意向を伝えた。ナチス・ドイツは，先々もユダヤ人絶滅政策の実行領域を拡大し，絶滅政策を続けようとしたからである。ドイツ側が執った戦術は，お目付役となるユダヤ人問題の専門家を送り込むことであった。ティソとの会談に先立って，フェーゼンマイヤーは，以前にギリシアでスロバキアにおけるのと同じような任務に当たっていた［顧問官］ヴィスリチェニーと面談して，スロバキア・ユダヤ人の基本情報を収集していた。フェーゼンマイヤーとティソの会談の記録が簡潔すぎるからであろうか，このときの面談は様々に解釈されており，記録の異本も多くある。とは言え，ドイツ側の決意のほどはよく分かる。以下の引用文は，ドイツ軍が歯がゆい思いをしていたことを示している。

> 交渉の最後に当たり，スロバキア大統領は，スロバキアに残っている 1 万 6000 人から 1 万 8000 人のユダヤ人が今後数ヶ月で強制収容所に収容されるとの確信を述べた。1944 年 4 月 1 日までに収容するという計画は，いかなる例外も認めていない。［ところが，現状では］洗礼を受けたユダヤ人［キリスト教に改宗したユダヤ人］は移送対象から外されている。［大統領との会談の］次に行われたフェーゼンマイヤーと首相ヴォイテフ・トゥカとの会談では，彼ら［移送対象から外された改宗ユダヤ人］に時間が割かれた。この会談では，洗礼を受けたユダヤ人およそ 1 万人を収容所に収容することが決まった。(8)

会談記録の異本は，［スロバキア側の］閣僚などの政府高官が［移送の］引き延ばし戦術をとるだろうと注記している。しかしティソの回答は，そのような戦術を容認するつもりはなく，この［移送］作戦が実行に移されて，できるだけ早く移送が完了することを個人的に保証する，というものであり，ティソはドイツ特使［フェーゼンマイヤー］に，日限の 4 月 1 日はきっと守ると確約した。

洗礼を受けたユダヤ人の強制移送については，ティソが約束しトゥカが後押ししただけでなく，ドイツからの圧力が強まったにもかかわらず，4 月 1 日の期限までにユダヤ人が強制移送されることはなかった。前線の情勢，ドイツと連合軍との攻守逆転，途切れることのないバチカンの介入など，目まぐるしく変わる国際情勢によって，スロバキア政府は世界情勢を考えざるを得なくなったからである。

4．強制移送の再開（1944 年）

［1944 年 9 月に］ドイツ軍がスロバキアを占領した後の 1944 年 10 月，とうとう最終局面に入った。そのころ思いがけずヒムラーが

［訳注 10］Edmund Veesenmayer（1904 年～1977 年）。ドイツの外交官。1939 年 3 月のチェコスロバキア解体（ボヘミア・モラヴィアの保護領化とスロバキアの独立）に重要な役割を果した。1944 年 3 月，占領と同時にドイツ全権大使としてハンガリーに赴任。

(8) See Raul HILBERG, *Vernichtung der europäischen Juden*, Frankfurt am Main 1993, p. 790.（ラウル・ヒルバーグ『ヨーロッパ・ユダヤ人の絶滅』（全 2 巻）（望田幸男，原田一美，井上茂子訳），柏書房，1997 年，下巻 49 頁）。Compare to: *Nemci a Slovensko. Documents*［ドイツとスロバキア：関連文書］, Bratislava 1966, doc. 12; PLIAKOY-WULF, J., *Das Dritte Reich und seine Diener* (Frankfurt am Main 1983), p 73.

ブラチスラバを訪問した[訳注11]。首相や大統領との会談で，ヒムラーは［スロバキアの］「最終解決」には不満であると言い，強制移送の無条件再開を要求した。その上でヒムラーは，スロバキア国民蜂起の共犯であるユダヤ人を強制移送しなければ，スロバキア市民は復讐の的になるだろうし，国の平和が脅かされることにもなるだろう，と言った。「疎開させるのはユダヤ人のためである。第三帝国ではユダヤ人に危害が加えられてはいない。ユダヤ人は労働することになるだろう。働けない者の問題も解決される。」(9) というヒムラーの発言は身勝手としか言いようがない。

ヒムラーが訪問した後になっても，ドイツ側がユダヤ人を強制移送するようにスロバキア側に圧力を加えることはなかった。だが，ヒムラーの訪問は，スロバキアからのユダヤ人の強制移送が遅々として進まないことにいらだちを覚えていたドイツ側が発した警告であった。

スロバキア国民蜂起の勃発直後に，セレチの収容所が再開されたが，その準備に当たったのは，ブラチスラバから派遣されたドイツ親衛隊である。アイヒマンの副官であったアロイス・ブルンナー (Alois Brunner)[訳注12] は，1944 年 9 月下旬にセレチ収容所の所長として赴任した。かつてブルンナーはギリシアでヴィスリチェニーと一緒に軍務に当たり，その後フランスでもユダヤ人の絶滅を担当した。ブルンナーの赴任は，ドイツの非公式筋の情報によってあらかじめ分かっていた。ブルンナーは，ベルリンの帝国保安本部 (RSHA) から「ユダヤ人問題の抜本的解決」の実現を託されていたのである。ブルンナーが赴任するまでは，強制移送に対するドイツの関与の仕方は，外交によるか，あるいはスロバキア政府関係者に政治的圧力をかけるというやり方によっていた。ところが，ブルンナーがセレチに到着すると，強制移送に舵が切られることになった。この強制移送に先立って，ブラチスラバに住むユダヤ人（1942 年に何らかの理由で強制移送を免れたユダヤ人）が襲撃された。1944 年 9 月 28 日から 29 日の夜である。義勇親衛隊 (Freiwillige Schutzstaffeln: FS)［ドイツ人党の準軍事組織］とフリンカ警固隊の兵士が，ユダヤ人居住区で約 1600 人のユダヤ人を検挙してセレチ収容所に連行した。このユダヤ人狩りの後になると，ドイツ軍は，ユダヤ人問題の解決とスロバキア・ユダヤ人の組織的な強制移送の主導権を間違いなく握ることになった。

ドイツの新たな全権大使として，間髪を入れずにセレチの収容所の管理を引き継いだブルンナーは，それまで各国でみずから実践していた方法をスロバキアに移植した。その指導よろしきを得てセレチ収容所は強制収容所になった。この収容所からユダヤ人はアウ

［訳注 11］1944 年 8 月 29 日に反ティソ・反独の「スロバキア国民蜂起 (Slovenské národné povstanie: SNP)」がスロバキア中部の都市バンスカ・ビストリッツア (Banská Bystrica)（ブラチスラバの東約 200 ㌔）で勃発し全国に広がった。ドイツ軍の介入により同年 10 月に鎮圧され，スロバキアはドイツに占領された。本文に言うヒムラーのスロバキア訪問は蜂起鎮圧後。このころになると，蜂起軍は山岳部に拠点を置くパルチザン方式をとった。蜂起勃発の日はスロバキアの国民の祝日。

(9) *Nemci a Slovensko. Documents*［ドイツとスロバキア：関連資料］, doc. 587, pp. 1093–1094.

［訳注 12］アロイス・ブルンナー（1912 年～？）。1954 年までエッセン（西ドイツ）に偽名で住んでいた。フランスの法廷（欠席裁判）で死刑判決を受けた後，シリアに逃亡し，2010 年にはダマスカスで死亡していたと伝えられている。Cf. “Alois Brunner (Nádkút/Rohrbrunn 1912-unknown): Organiser of the Jewish deportations,” Website of the *National Fund of the Republic of Austria for Victims of National Socialism*, https://www.auschwitz.at/alois-brunner-en, accessed on Jul. 9, 2024; “Nazi war criminal Alois Brunner ‘died in Syria squalor’,” 11 January 2017, Website of the *BBC News Services*, https://www.bbc.com/news/world-europe-38586945, accessed on Jul. 9, 2024.

シュヴィッツ，ラーフェンスブリュック，ザクセンハウゼン，ベルゲン・ベルゼンの強制収容所に移送されるほか，セレチを出発した最後の 4 本の移送列車は 1944 年 9 月以降にテレジーン［テレジエンシュタット］に向かった[訳注13]。

スロバキアにおける「ユダヤ人問題の解決」は，もっぱら内政の問題であって，ユダヤ人を強制移送するかどうかの決定はスロバキア政府が下した ── このような言い方は間違っている。ユダヤ人の絶滅政策は，ドイツのシナリオに従って実行されたのであって，まさにそのことが特徴だからである。1940 年 6 月に「マダガスカル計画」(編者注記) が策定されたとき，その計画にはスロバキア・ユダヤ人も移送対象に含まれていた。フランツ・ラーデマッハー (Franz Rademacher) の指揮下にあった外務省第 DⅢ課は，アイヒマンが作成したユダヤ人絶滅計画を練り上げたのである[訳注14]。この計画を実現させるために，ラーデマッハーは占領地に顧問官のネットワークを構築し，作戦の遂行を調整した（ただし，ヨーロッパ・ユダヤ人のマダガスカル島への移送計画は実現しなかった）。1942 年 1 月 20 日にヴァンゼーで「ユダヤ人問題の最終解決」に関する会議が終わった。このヴァンゼー会議の成果の 1 つは，ドイツ外務省が治安警察や親衛隊保安局の担当官と膝を交えて，ドイツ軍の影響下にあるヨーロッパの占領地域における最終解決を議論したことであった。この会議で，会議を主宰したラインハルト・ハイドリヒ (Reinhard Heydrich) は，スロバキアではこの問題の解決に障害があろうはずはないと言い切った(10)。その証拠に，それから 1 ヶ月が経過したころ，スロバキアは就労可能なユダヤ人青年 2 万人を［ドイツに］提供することにしたのである。このときのユダヤ人は帝国保安本部 (RSHA) の管理下にある収容所に移送されることに

［訳注 13］Cf. Katarína HRADSKÁ, „Vorgeschichte der slowakischen Transporte nach Theresienstadt“, *Theresienstädter Studien und Dokumente*, 1996.（カタリーナ・フラツカ「テレジエンシュタットへのスロバキからの強制移送―前史―」（木村和範訳），『経済論集』（北海学園大学），第 71 巻第 1 号，2023 年 6 月。）

（編者注記）ヨーロッパから 400 万人のユダヤ人をマダガスカル島に移住させる計画。［訳注 14 を参照。］

［訳注 14］1941 年 7 月にドイツ外務省ドイツ局第 DⅢ課長（「ユダヤ課長」）フランツ・ラーデマッハー（1906 年～1973 年）は，ユダヤ人のマダガスカル島移送計画を策定した。直属上司はマルティン・ルター (Martin Luther)（訳注 15）。当時の外務大臣はヨアヒム・フォン・リッベントロップ (Joachim von Ribbentrop)。1940 年にフランスとの講和条約が締結されたころ，その協議に参加したドイツ外交官フランツ・ラーデマッハーが，仏領マダガスカル島へのユダヤ人の移住を提案した（フランス占領の目途が立ったからとも言われている）。ただし，制海権の問題があって机上プランに終わった。「マダガスカル島移送計画（案）」については以下を参照。① “Unraveling the Eichmann Enigma: The Madagascar Plan in 1940,” Website of the *Jewish Original Media* (JOM), https://jewishoriginal.com/madagascar-plan/, accessed on Jul. 9, 2024; ② “The Nazis & the Jews: The Madagascar Plan (July 3, 1940),” Website of the *Jewish Virtual Library*, https://www.jewishvirtuallibrary.org/the-madagascar-plan-2, accessed on Jul. 9, 2024; ③ “Madagascar Plan,” Website of the *Encyclopedia.com*, https://www.encyclopedia.com/religion/encyclopedias-almanacs-transcripts-and-maps/madagascar-plan, accessed on Jul. 9, 2024; ④ “The Madagascar Plan, July 1940,” Website of the *Yad Vashem*, https://www.yadvashem.org/odot_pdf/Microsoft%20Word%20-%205398.pdf, accessed on Jul. 9, 2024.

(10) Protocol from conference in Wannsee. In IfZ Mnichov, NG-2586.［アイヒマンが取りまとめた議事録には次のように記載されている。「スロバキアおよびクロアチアにおいては，当該案件はもはや困難なものではない。」（ヴァンゼー会議記念館編『資料を見て考えるホロコーストの歴史―ヴァンゼー会議とナチス・ドイツのユダヤ人絶滅政策―』（山根徹也，清水雅大訳），春風社，2015 年，155 頁。）］

なっていた。マルティン・ルター[訳注15]宛の電報は「ヨーロッパ・ユダヤ人の最終解決」に当たって，ドイツ政府は速やかにスロバキア・ユダヤ人を受け入れ，東方へ移送する用意がある(11)，スロバキア政府は諸手を挙げてこの提案を受容している，という内容であった(12)。── こうして，顧問官ヴィスリチェニーは，スロバキアからのユダヤ人の強制移送のための準備に着手して，その任務を果たしたのである[訳注16]。

［訳注 15］Martin Franz Julius Luther（1895 年 12 月 16 日～1945 年 5 月 13 日）。ナチス・ドイツの外交官。外務大臣ヨアヒム・フォン・リッベントロップの部下。ヴァンゼー会議に出席し，ユダヤ人の絶滅計画を策定。戦後，逮捕収監中に収容所で病死。

（11）PAAA Bonn, Gesandschaft Pressburg, 312/5, Pol. 4, Mr. 2, Bd.1.

（12）*Ibid.*

［訳注 16］このときの強制移送は 1942 年 3 月 25 日から同年 10 月 20 日まで行なわれ，約 5 万 8000 人のユダヤ人が移送された。